



平成26年12月8日

各位

会社名 日本テレホン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 執行役員
 高山 守男
 (東証 JASDAQ スタンダード: 9425)
 問合せ先 取締役執行役員 経理財務本部長
 茶谷 喜晴
 電話番号 06-6881-6611

平成27年4月期第2四半期累計期間および 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成26年6月13日付け「平成26年4月期 決算短信 [日本基準] (非連結)」にて公表しました平成27年4月期第2四半期累計期間(平成26年5月1日～平成26年10月31日)および通期(平成26年5月1日～平成27年4月30日)の業績予想を修正することといたしましたのでお知らせ申し上げます。

記

1. 第2四半期累計期間(平成26年5月1日～平成26年10月31日)の業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,817	55	47	40	11.96
実績値 (B)	3,897	△17	△24	△81	△23.94
増減額 (B-A)	79	△73	△71	△122	
増減率 (%)	2.1	—	—	—	
(ご参考) 前年同期実績	3,230	46	57	47	13.85

2. 第2四半期累計期間の業績予想数値の修正理由

当第2四半期累計期間における業績予想の差異理由につきましては、主力の移動体通信関連事業において「iPhone6」等、スマートフォンを中心とした新機種への導入に伴い、売上高においては当初の見込みに対して比較的順調に推移したものの、同機種の販売においては機種変更需要の比率が高く、新規加入や他の移動体通信事業者からの乗換を前提とした販売手数料収入に比較して、同一事業者間における機種変更での販売手数料収入は低下傾向にあり、加えて顧客還元型の販売促進施策の急激な是正に伴う販売への影響や、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動減等により、同事業分野の業績は厳しい状況で推移いたしました。

また、中古携帯電話機の販売を始めとするリユース事業におきましては、既存携帯電話の仕入れに相当する中古携帯電話機の確保において、WEBサイトでの買取機能の強化に加え、国内法人企業からの調達や、海外からの調達ルートの開拓を通じ、仕入元チャネルの整備・拡充に努めてまいりました。

同事業分野におきましては、国内での「iPhone6」を始めとしたスマートフォン等の新機種の販売において、買換需要に対する販売促進策として各移動体通信事業者がこぞって採用した高価格帯での下取り施策の実施に伴い、国内中古携帯電話市場への商品流通量が低下を来す一方、一時的ではあるものの海外中古市場における流通量の急激な変動や、それに伴う流通価格の混乱等も相俟って、売上高では当初の予想を上回る見込みではありますが、利益率の面においては厳しい状況で推移いたしました。

これらの結果、売上高につきましては、前回発表予想 3,817 百万円に対し、3,897 百万円と前回発表の予想を 79 百万円、2.1%上回る見込みであります。営業損益および経常損益につきましては、引き続き一般管理費の削減を始め種々経営効率の改善に努めてまいりましたが、市場競争の更なる激化に加え販売手数料体系の変更等による利益率の低下等により、営業損失 17 百万円（前回発表予想は 55 百万円の営業利益）、経常損失 24 百万円（前回発表予想は 47 百万円の経常利益）となる見込みであります。

また、四半期純損益につきましては、平成 26 年 11 月 28 日付け「海外取引先における債権の取立不能または取立遅延のおそれおよび特別損失の発生に関するお知らせ」に記載の通り、海外からのスマートフォンの仕入取引において、邦貨換算で 48 百万円の債権の取立不能または取立遅延のおそれが発生したことに伴い、貸倒引当金を計上したことに加え、関西圏の「専門ショップ」および「情報通信ショップ」の 2 店舗の減損処理により 54 百万円の特別損失を計上し、税金費用等 2 百万円を差し引いた結果、四半期純損失 81 百万円（前回発表予想は 40 百万円の四半期純利益）となる見込みであります。

3. 通期（平成 26 年 5 月 1 日～平成 27 年 4 月 30 日）の業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,471	166	158	140	41.21
今回修正予想 (B)	8,254	38	21	△44	△13.14
増減額 (B-A)	△217	△128	△137	△185	
増減率 (%)	△2.6	△76.8	△86.5	—	
(ご参考) 前年実績	7,653	131	145	123	36.32

4. 通期業績予想数値の修正理由

通期の業績予想につきましては、主力事業である移動体通信関連事業において、今後もスマートフォンを中心とした新機種の導入が予定され、安定した商品供給を前提に需要は堅調に推移するものと予測されるものの、更なる市場競争の激化に加え移動体通信事業者による販売施策や手数料体系の大幅な変更等も相俟って、移動体通信関連事業における収益環境は、依然として予断を許さない状況が続くものと思われま。

また、中古携帯電話機の取扱いを始めとしたリユース事業におきましては、国内向けの販売を対象とした中古携帯電話機の国内仕入において、新品市場における下取り価格の高騰等により当面の間、国内中古市場への商品供給に支障を来すことが予測されると共に、海外中古市場においても流通量の急激な変動や、それに伴う流通価格の混乱等もあり、販売数量や売上高、利益率の面において、当初の予想を下回ることが懸念されます。

当社といたしましては、上記に記載の事項を踏まえ通期業績の見通しについて、売上高を前回発表予想 8,471 百万円に対し今回発表予想 8,254 百万円（2.6%減）に修正をいたします。

なお、営業損益および経常損益、並びに当期純利益につきましては、今後の市場環境を鑑み、営業利益 38 百万円（前回発表予想は 166 百万円の営業利益、76.8%減）、経常利益 21 百万円（前回発表予想は 158 百万円の経常利益、86.5%減）にそれぞれ修正すると共に、当期純損失 44 百万円（前回発表予想は 140 百万円の当期純利益）に修正をいたします。

以 上

※ 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。